

『中沖小学生がヒラメの稚魚を放流！』

5月14日(水)、柏原海岸で中沖小学校3・5年生の児童19人がヒラメの稚魚を放流しました。

これは、大崎町と東串良漁協が『つくり・育てる』漁協の推進を目的に毎年行っているもので、今回は柏原小学校（東串良町）の3・4年生40人も一緒に参加し、約7,000尾のヒラメの稚魚を放流しました。

ヒラメの稚魚が入ったバケツを片手に、波うちぎわに並んだ子ども達は、「せーの」と言う掛け声とともにヒラメを放流。柏原海岸には子ども達の楽しそうな声が響いていました。



『大会参加料などの一部を寄付』

4月20日(日)、あすばる大崎で開催された『第36回全日本きもの着付&ヨガフェスティバル』の参加料の一部が、大崎町社会福祉協議会へ寄付されました。

寄付をされたのは、日本和装学園大隅本校学園長の溝口千恵子さん（中郷集落）で「福祉のために役立ててください。」と話されました。

大会では、振袖の部で平野栄子さん（中沖東集落）が優勝。また、戸床順子さん（横内集落）が南日本新聞社賞を受賞されました。

『町政座談会を実施しました！』

5月14日(水)から30日(金)にかけて、大崎町7地区で町政座談会を実施し、町内の地域住民延べ194人の参加がありました。

座談会では、長寿医療（後期高齢者医療）制度や畑かん営農推進、市町村合併に関する状況などが説明されました。それに対し住民からは、日ごろ不安に思っていることや、これからの大崎町をどのように考えているのかなど、数多くの意見交換や質疑応答がなされました。

これからの大崎町。ぜひ、地域住民と行政が一体となり、誰もが“安心・安全で暮らせるまちづくり”ができるといいものです。

